

第2週の発生動向(2006/1/9~2006/1/15)

1. インフルエンザは、五所川原保健所管内で引き続き、上十三保健所管内で新たに**注意報**が出されました。
2. 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
3. 流行性耳下腺炎は、五所川原保健所管内で引き続き**警報**が出されています。

第2週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	43	3.07	59	3.93	100	7.14	97	13.86	180	20.00	14	2.33	493	7.58	217
(60) 咽頭結膜熱			1	0.11							2	0.50	3	0.07	-8
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.11	10	1.11	1	0.11	2	0.40	2	0.33	1	0.25	17	0.40	-6
(62) 感染性胃腸炎	54	6.00	46	5.11	9	1.00	1	0.20	30	5.00	37	9.25	177	4.21	39
(63) 水痘	18	2.00	12	1.33	18	2.00	13	2.60	6	1.00	15	3.75	82	1.95	-37
(64) 手足口病	1	0.11											1	0.02	0
(65) 伝染性紅斑	11	1.22	28	3.11	3	0.33	2	0.40			1	0.25	45	1.07	15
(66) 突発性発しん			4	0.44	4	0.44			3	0.50	3	0.75	14	0.33	-1
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ															0
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.22	5	0.56	3	0.33	13	2.60	8	1.33	9	2.25	40	0.95	-12
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50			1	0.50	2	2.00					4	0.36	-3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内 : 10人 五所川原保健所管内 : 2人
 上十三保健所管内 : 1人 (18年計 31人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内 : 2人 (18年計 8人)

感染症の啓

インフルエンザ

図1 インフルエンザ発生状況

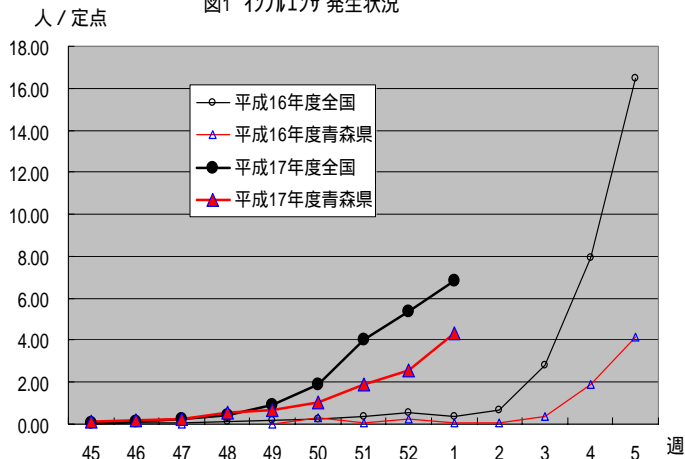
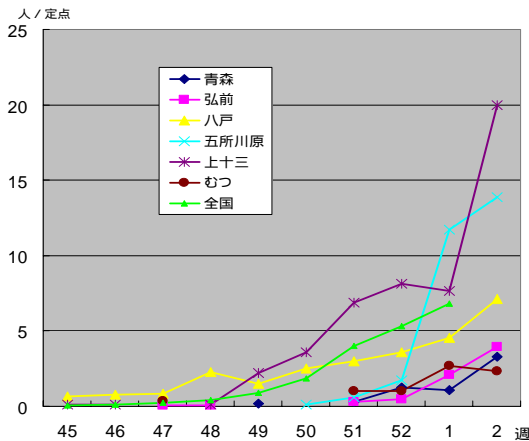


図2 保健所管内別インフルエンザ発生状況



本県でのインフルエンザの最初の発生報告は、昨シーズンが第47週(11月15日~11月21日)だったのに対し、今シーズンは第45週(11月7日~11月13日)でした。また、最初の注意報の発生は、昨シーズンが第6週(2月7日~2月13日、八戸保健所管内及び上十三保健所管内)だったのに対し、今シーズンは第1週(1月2日~1月8日、五所川原保健所管内)でした。

このように、本県の今シーズンのインフルエンザの発生及び流行は、昨シーズンよりも早く始まっています。また、全国的にも同様の傾向にあります(図1)。

特に、注意報が出ている五所川原保健所管内及び上十三保健所管内では、インフルエンザ発生件数が急増していますので、今後の動向に注意が必要です。(図2)。

分離ウイルスでは、青森県も含め全国的にAH3型が多く、次いでAH1型です。B型も若干分離されています。